

岩手県

いち

のへ
戸

まち
町



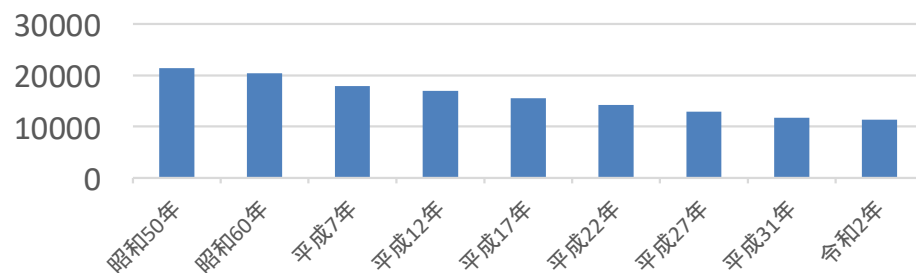
世界遺産 ざしよの
御所野遺跡

一戸町の紹介

一戸町の概要

一戸町は、岩手県の内陸北部に位置し、北上山地と奥羽山脈に囲まれ、山林・原野が62%を占める高原の町です。面積は300.03km²で徳島市の1.5倍ほど。人口は、昭和50年と比較すると概ね半数の11,400人に減少しており、人口密度は38人/km²、高齢化率は42.8%の典型的な山間の過疎の町です。

一戸町の人口推移



主要産業は農業。南北に国道4号が縦断、八戸自動車道一戸インターチェンジがあり、隣町の二戸市には新幹線駅があります。かつて国鉄の東北本線だった鉄道路線は、現在県と沿線市町が出資する第三セクターが運営しており、町内には4つの駅があります。2016年のいわて国体が契機となり、「なぎなた」が盛んです。



世界遺産の紹介

御所野遺跡

御所野遺跡は令和3年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する17資産（北海道、青森県、秋田県、岩手県）の一つで、岩手県内からは唯一の遺跡として世界遺産に登録されました。

■御所野遺跡の概要

世界遺産に登録された遺跡群の南の玄関口に位置しています。5,000～4,200年前の遺跡で、配石遺構を中心に三つの集落が広がる景観や、復元された土屋根の竪穴建物などの見所があります。土屋根住居が確認された全国初の遺跡としても貴重です。



竪穴建物



配石遺構

御所野むら（5,000～4,200年前）



15,000 年前		11,000 年前		7,000 年前		5,000 年前		4,000 年前		3,000 年前		2,300 年前	
旧石器時代	草創期	早期	前期	中期		後期		晩期		弥生時代			

一戸町の特産品など

農産品

■高原レタス

町の南にある奥中山地区は、国道4号の最高点（海拔458m）がある高原地帯です。比較的冷涼な気候を生かし、西岳からのきれいな水と満点の夜空が見渡せる澄んだ空気で育ったレタスは県内生産額1位。全国的にも有数の生産地です。



工芸品

■鳥越の竹細工

慈覚大師が伝えたと言われる鳥越の竹細工は主に鳥越地区で守り伝えられてきました。細くしなやかなスズタケを原料とし、その特性を生かした素朴で優しい肌触りが現代の暮らしにマッチしていると県内外に根強いファンがいます。



使い込むほどアメ色に・・・

乳製品

■奥中山高原の乳製品

町の乳製品の出荷額は県内2位を誇ります。大自然で育った健康な牛からしぼられた生乳は牛乳、アイスクリーム、ヨーグルト、チーズなどに加工され首都圏でも販売されています。



奥中山高原

■岩手県北部有数のリゾート施設

標高1018mの西岳にある奥中山高原スキー場。冷涼な気候のため雪質はパウダースノー。源泉掛け流しの温泉や宿泊施設を併設。奥中山の新鮮な生乳と季節の素材で作るジェラートは町民をはじめ、ドライブなどで訪れる旅行者にも大人気です。



脱炭素が市町村間交流の転機に

元町(横浜市中区)での活動

2010年1月に一戸町は特産品の販路拡大などを目的として、横浜市中区元町地区に町単独でアンテナショップを開設していました。(2021.9閉業)

元町地区では一戸町の特産品の普及を図るため地域の商店街振興組合と連携した町産品の販売イベントや、元町地区のシェフ協力のもと、町産品を使った料理の試食会、イベントでの町産品を使ったメニューの提供などを行っていました。



横浜市との連携協定の締結

2019年2月6日に「一戸町と横浜市における再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定」を締結しました。

脱炭素社会の実現をいち早く宣言した横浜市と再エネのポテンシャルが高い北岩手の市町村が手を組み、再エネをコアとしつつも、ヒト、モノを含む交流をするための下地が整いました。



年	連携協定締結からの主な出来事
2019	2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言(県北9市町村による共同宣言) 「関係人口創出・拡大事業」(総務省)モデル事業
2020	北岩手循環共生圏の結成
2021	いちのへ×横浜国立大 地域課題解決「さむい町を熱くする」
2022	横浜元町フードフェア2022参加



■横浜市への職員派遣
令和3年度から横浜市温暖化対策統括本部に職員を派遣。温暖化対策をはじめ、横浜市の先進的な取組を学び、町との円滑な繋がりをもつための窓口となっています。

北岩手循環共生圏の結成

北岩手循環共生圏結成

横浜市と再エネに関する連携協定を締結した北岩手9市町村（久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町）が農山漁村も都市も生かす仕組みとして環境省が提唱する「地域循環共生圏」に賛同し「北岩手循環共生圏」を結成。北岩手9市町村がまとまって横浜市との再エネを中心に交流を始めるきっかけとなりました。



北岩手循環共生圏の歩み

年	内容
2020	北岩手循環共生圏の結成 北岩手循環共生圏連携連絡会開催 北岩手循環共生圏講演会 & パネルディスカッション
2021	横浜市役所内で「北岩手展」開催
2022	脱炭素勉強会・再エネ勉強会開催

地域循環共生圏



資料：特定非営利活動法人仕事人倶楽部

出展：令和2年度環境・循環型社会・生物多様性白書（環境省）

共生圏の中での循環をはじめ、広域的に北岩手循環共生圏からは食材、自然や再生可能エネルギーを横浜市へ、横浜市からは人材、情報、技術や資金を北岩手循環共生圏へというように、それぞれがそれぞれの弱い部分を相互に補完する関係性を発展させていきたいと考えています。

一戸町の再生可能エネルギー

一戸町の再エネ施設

■木質バイオマス発電(御所野縄文発電所)

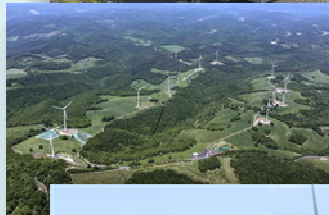
- ・事業者 (株)一戸フォレストパワー
(親会社 (株)フジコー)
- ・最大出力 6,250kW

町内林業者と協力し、町内を中心に間伐材などの木材を買い取り、チップに加工したものを燃料として発電しています。



■風力発電(高森高原風力発電所)

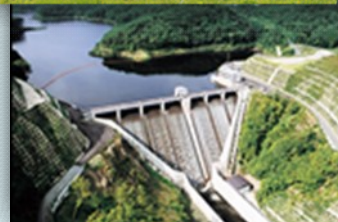
- ・事業者 岩手県企業局
 - ・定格出力 25,300kW
- 平成30年1月から運転開始。
2,300kW×11基が稼働中。



■水力発電(大志田ダム発電所)

- ・事業者 馬淵川沿岸土地改良区
- ・最大出力 810kW

大志田ダムに設置されている小水力発電施設。冬はダム湖面が氷結するためワカサギ釣りで賑わいます。



一戸町の再エネが横浜市へ

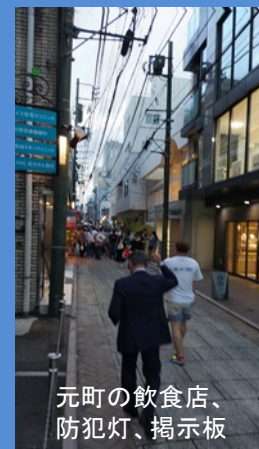
■地域電力(御所野縄文電力)

- ・事業者 御所野縄文電力(株)
(親会社 (株)フジコー)

主に御所野縄文発電所で発電された電力を販売。町内事業者、一戸町役場庁舎と関連施設、横浜市にも供給しています。



■横浜市内への電力供給の実例



元町の飲食店、
防犯灯、掲示板



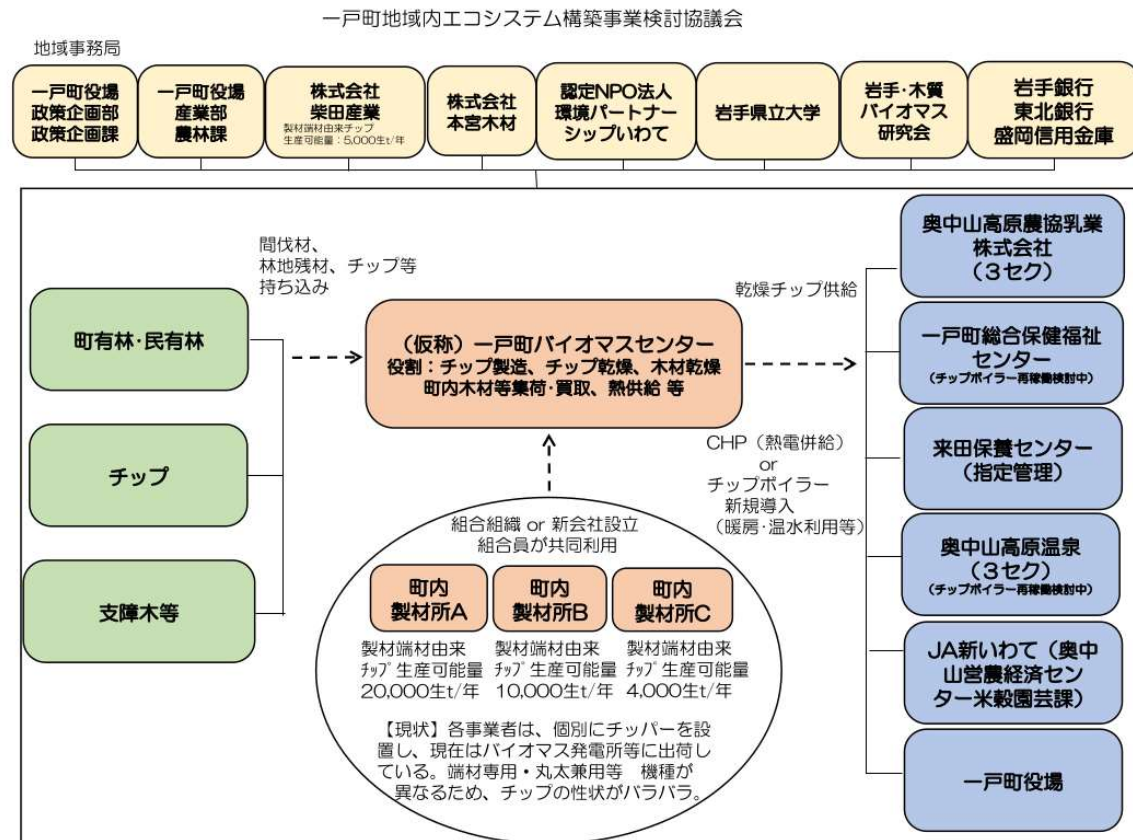
吉田町の街路灯

脱炭素に向けた動き①

地域内エコシステムイメージ



地域内エコシステムとは、小規模な木質バイオマスエネルギーの熱利用または熱電併給によって、森林資源を地域内で持続的に活用する仕組みのことです。



脱炭素に向けた動き②

GHG(温室効果ガス)排出量の見える化

■基本合意書の締結

一戸町、(株)岩手銀行、(株)ゼロボードはGHG排出量をグラフなどで見える化できるサービス「zeroboard」を用いてGHG排出量削減の取組を行うとともに、町内に向けてGHG排出量削減に係る普及啓発活動等の実施するため、相互に協力することを合意しました。

■今後の活用

まずは、一戸町役場と関連施設で導入を進め、施設のGHG排出量を視覚的に見える化し、職員のGHG排出についての意識付けを行うとともに、まちづくりをしていく上での大事な要素として施策に生かしていきたいと考えています。



関係人口創出・拡大事業①

令和2年度の事業から「一戸町の魅力発見ツアー プロジェクト」



■木質バイオマス発電所の見学がきっかけに

- ・ 横浜市の町内会に働きかけ、町内会の電灯の電源として契約。この取組が神奈川県で特集されました。
- ・ この発電所で発電された電気をご自宅で使うために契約した方もいました。

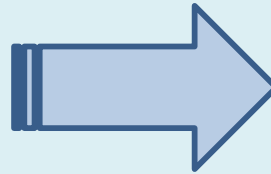


■地元のイベントや地域食堂で

- ・ 横浜市の関内まちづくり振興会が主催するイベントで一戸町への来訪者も加わり一戸町の野菜を販売。一戸町のPRに一役買いました。
- ・ 地域食堂にも一戸町の食材を提供。新鮮でおいしいと大好評です！

関係人口創出・拡大事業②

令和2年度・3年度の事業から「花の交流」



交流の「花」咲かせたい
横浜市と 花の苗交換 オンラインイベント

一戸町と横浜市は18日、両市町が花の苗を交換して植えるオンライン交流イベントを開いた。同町の小鳥谷地区公民館では児童がバラを花壇に植え、元気に育つことを願った。

この日は、同公民館の放課後子ども教室に通う児童ら13人が、市立野小と大鳥小の児童らと画面を通して、自己紹介し合ったり、花を見た感想を話したりして植樹を実施。代表でバラの苗を植えた町立小鳥谷小1年生藤原君と3年生田村君は「元気な花が咲くよう大切にしたい」と話していた。

(渡部優)

■一戸 & 横浜 花の交流で

- 令和2年度に国の天然記念物である「藤島のフジ」の花と横浜市の花であるバラをお互いに寄贈し植樹。横浜市では、その一部を羽沢小学校に定植しました。これをきっかけに、一戸町の小鳥谷小学校と交流が始まりました。
- 羽沢小学校はSDGsに関する教育も盛ん。「環境」を考える活動などでオンラインで小鳥谷小学校と交流を深めています。

関係人口創出・拡大事業③

その他主なプロジェクト

5.取組の内容 令和2年度の活動

④一戸&横浜 オンライン勉強会 一戸町を知る三日間プロジェクト

目的と概要：一戸町の循環可能な林業や観光資源を横浜市の方々に知ってもらうため、横浜市民を対象に、勉強会を3日間続けて開催した。

開催日時：＜第1回＞1月27日 14:00～16:00
＜第2回＞1月28日 14:00～15:30
＜第3回＞1月29日 14:00～16:00

開催場所：一戸町役場、横浜市の各会場

プログラム：挨拶～講演会～質疑応答

参加者：約100人（SNS発信、チラシにより募集）

開催状況：ZOOMのIDを関係者に伝え、一戸町役場と横浜市、首都圏の各会場をオンラインで結び、勉強会を開催した。

成果等：勉強会参加者アンケートによると、参加者の全員が「一戸町応援団」に興味があると回答し、期待以上の成果が出た。



令和2年度 総務省「関係人口創出・拡大事業」

9

5.取組の内容 令和2年度の活動

⑤一戸&横浜 オンラインりんご狩り 一戸&横浜 星空・環境講演会

目的と概要：新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続くことが想定される中、オンラインを活用して交流が進められる体制を作るため実施した。

開催日時：＜オンラインりんご狩りイベント＞11月19日 14:30～15:00

＜第1回オンライン星空・環境講演会＞12月11日 18:00～19:50

＜第2回オンライン星空・環境講演会＞12月18日 18:00～19:50

開催場所：＜りんご狩り＞一戸町内リンゴ農園、横浜市役所 ＜星空＞一戸町立島海小学校校庭、横浜市内各所

プログラム：挨拶～体験～質疑応答

参加者：＜りんご狩り＞15名 ＜星空＞40名

開催状況：ZOOMのIDを関係者に伝え、一戸町と横浜市の各会場をオンラインで結び、イベントを開催した。

成果等：参加者からは、この体験を通じて、一戸町という場所に行ってみようと思ったという感想が多数寄せられた。



令和2年度 総務省「関係人口創出・拡大事業」

10

これからの

再エネを通じた横浜市との交流①

横浜市への再エネ供給が発電施設立地地域に貢献

一戸町では、今まで地域にある新電力を通して横浜市への再エネ電力供給を進めてきました。しかしながら、電力制度の改定を経て、昨今の市場での電力調達コストの大幅な上昇に伴い、地域新電力による横浜市での再エネの利用拡大が難しい状況となっています。

そこで、横浜市の実証事業としての実績がある「グッドア라운드」を活用し、地域に立地する発電事業者の電力の一部をこの仕組みにより横浜市へ供給すること、売電利益の一部の還元を受け地域活性化に生かすことを検討しています。

■グッドア라운드

(株)まち未来製作所が構築した再エネの流通による地域活性化モデルであり、電気代の一部を地域活性化資金として電源が立地する自治体に還元することで、地域活性化に貢献。



グッドア라운드의イメージ（株式会社まち未来製作所提供）

地域活性化資金の原資は、需要家の電気代の一部から創出するため、発電事業者様の収益性に影響ありません（FIT単価、期間などに影響しません）

これからの

再エネを通じた横浜市との交流②

再エネ価値の再確認とSDGs

■再エネの価値を実感する

横浜市民が一戸町を訪れ、植林体験や再エネ発電の現場を見学。自然の豊かさとそれを支える人の営みを知り、営みが繰り返されることにより持続する。これが再生可能エネルギーであることを感じてもらいたいと考えています。



■1万年続いた縄文文化に学ぶ

SDGsは全世界の共通目標。1万年もの間平和が続いた縄文文化は、現代において持続可能な社会を形成するためのヒントがあるはずです。

世界遺産の話

世界遺産というのは、国や地域をこえて守らなければならない、人類共通の大切な宝物のことです。

宝器を未来に伝えるために、ふたつ（国連と世界自然遺産）で世界遺産という仕組みが生まれました。

世界遺産として登録されるためには、その地域の価値が認められること、将来にわたって守っていく仕組みが整っていることなど、いくつかの条件があり、厳しい審査を受けなければなりません。

世界遺産には3つの種類があります。

- ①文化遺産
- ②自然遺産
- ③複合遺産

私たちが一戸町の御所野遺跡は、2021（令和3）年7月27日に世界文化遺産として認定されました。

縄文時代はSDGsのお手本

縄文時代の生活は、約1万年以上にわたって続きました。一つは、自然と共生する生活です。自然の恵みを上手に利用し、必要なものを自然から取り出すことで、持続可能な社会を実現しています。

縄文時代は、自然と共生する生活の模範です。現代の社会は、自然と共生する生活を取り入れることで、持続可能な社会を実現することができます。

御所野遺跡

縄文時代の生活は、自然と共生する生活です。自然の恵みを上手に利用し、必要なものを自然から取り出すことで、持続可能な社会を実現しています。

縄文時代は、自然と共生する生活の模範です。現代の社会は、自然と共生する生活を取り入れることで、持続可能な社会を実現することができます。

縄文時代の生活は一人一人が主役

縄文時代の生活は、一人一人が主役です。自然の恵みを上手に利用し、必要なものを自然から取り出すことで、持続可能な社会を実現しています。

縄文時代は、自然と共生する生活の模範です。現代の社会は、自然と共生する生活を取り入れることで、持続可能な社会を実現することができます。

再生可能エネルギーの活用は自然環境と技術の共生

再生可能エネルギーの活用は、自然環境と技術の共生です。自然の恵みを上手に利用し、必要なものを自然から取り出すことで、持続可能な社会を実現しています。

再生可能エネルギーは、自然と共生する生活の模範です。現代の社会は、自然と共生する生活を取り入れることで、持続可能な社会を実現することができます。

中高生などの若い世代が一戸町と横浜市を相互に訪れ、リアルなヒトの交流を活発にしていきたいと考えています。

おしまい

御清聴ありがとうございました。